

宗教の神学とキリスト教の再構築

芦名定道(キリスト教学)

< Contents >

1. はじめに - 今後の研究会に関連して -
2. キリスト教の諸動向と宗教の神学
3. 宗教の神学の問題状況
4. キリスト教の再構築
5. 展望

< 関連文献 >

1. 『ティリッヒと現代宗教論』北樹出版 1994年
第四章「ティリッヒと宗教の神学」pp.197-246
第五章「結び - キリスト教と宗教の未来 - 」pp.247-268
2. 「キリスト教と東アジアの近代化」『アジア研究所紀要』
第25号 1999年 pp.137-162 亜細亜大学アジア研究所
3. 「宗教の神学」の現状と課題」『宗教学会報』No.11 2000年
pp.29-56 大谷大学宗教学会
4. 土井健司、辻学氏との共著
『現代を生きるキリスト教 もうひとつの道から』教文館 2000年
第二部第4章「キリスト教は寛容でありうるか？」
第5章「民族主義と平和」
(『改訂新版 現代を生きるキリスト教 もうひとつの道から』教文館 2004年
第4章「多元化・グローバル化とキリスト教」)
5. 「南アジアのキリスト教の諸問題」『アジア研究所紀要』第27号
2001年 pp.191-218 亜細亜大学アジア研究所
6. 「キリスト教思想と宗教的多元性」『宗教研究』第75巻、329-2
2001年 pp.199-245 日本宗教学会
7. 「東アジアの宗教状況とキリスト教 - 家族という視点から - 」
『アジア・キリスト教・多元性』創刊号 2003年3月
pp.1-17 現代キリスト教思想研究会
8. 「第一節 宗教的多元性とキリスト論」
「第七章 現代思想とキリスト論」、水垣渉・小高毅編
『キリスト論論争史』日本キリスト教団出版局 2003年7月 pp.531-542
9. 「宗教的多元性とキリスト教の再構築」
星川啓慈・山梨有希子編
『グローバル時代の宗教間対話』
大正大学出版会 2004年2月 pp.121-157

10. 「死者儀礼から見た宗教的多元性

- 日本と韓国におけるキリスト教の比較より - 」

(金文吉・釜山学国語大学教授との共著)

『人文知の新たな総合に向けて (21 世紀 COE プログラム

「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」』

第二回報告書 [哲学篇 2] 2004 年 3 月 pp.5-23

<ポイント>

1. はじめに - 今後の研究会に関連して -

1. 本年度の COE 研究会の方針

研究会のセカンド・ステップへ：多元性・寛容性 宗教・東アジア・公共性
宗教研究 (キリスト教思想) と社会学

2. 研究会のセカンドステップの具体化に向けて

隔月 (社会学・キリスト教思想から一名ずつ) 国際シンポジウム、研究報告書

3. 顔合わせ・打ち合わせ

2. キリスト教の諸動向と宗教の神学

4. 個人的関わりから

問題状況のアウトラインを示す

5. 現代キリスト教思想の転換 (1960 年代以前と以降) と「宗教の神学」

第二バチカン公会議と W C C (世界教会協議会)

教派的多元性から宗教的多元性へ

キリスト教世界における宗教的多元化の進展とアジア的状况

6. 「宗教の神学」とは

宗教の積極的な存在という観点からの神学の再構築として位置づけること

「宗教」を神学的テーマとして位置づけることの必要性

3. 宗教の神学の問題状況

7. ヒックの類型論 (文献 1 , 3 , 4) : キリスト教は諸宗教の存在をいかに理解するか

・排他主義 (教会の壁の外の救いはない) 包括主義 (すべての良きものはキリスト教的である) 多元主義 (救いには多様な道が存在する。「神は多くの名を持つ」)

・多元性と多元主義

8. 神学の理論としては、排他主義を超える方向性の模索。しかし、実践的現場、あるいは神学者の本音としては？

宣教タイプの宗教としてのキリスト教

9. 争点をキリスト教思想に即して整理する：

三位一体におけるキリストと聖霊：特殊性 (唯一性) と普遍性 (遍在性)

1. John Hick and Paul F. Knitter, *The Myth of Christian Uniqueness. Towards a Pluralistic*

Theology of Religions, Orbis Books 1987

2. Gavin D'Costa, *Christian Uniqueness Reconsidered. The Myth of a Pluralistic Theology of Religions*, Orbis Books 1990
3. Pan-Chiu Lai, *Towards a Trinitarian Theology of Religions. a Study of Paul Tillich's Thought*, Kok Pharos Publishing House 1994
4. Christoph Schwöbel, *Christlicher Glaube im Pluralismus. Studien zu einer Theologie der Kultur*, Mohr Siebeck 2003
10. ティリッヒの「宗教の神学」(文献1)
Paul Tillich, *Christianity and the Encounter of the World Religions* 1963 (in: MW.5)
11. 対話のルート：相互の伝道活動 / 宗教の置かれた文化的伝統を介して / 個人的な対話
12. 個人的な対話の条件 (妥当請求): ティリッヒと久松真一
相互に相手の宗教の価値を承認すること
対話の当事者がそれぞれの宗教を代表していること
共通基盤 (common ground) の存在
相手からの批判に開かれていること
13. 「外からの批判を受け入れるということは、その批判を自己批判に変えることを意味する」(332)
14. 宗教の神学の基本問題
(1) 他者への無関心という問題
(2) 宗教間対話の必然性 (対話はほんとうに必要か。いかなるレベルで必要か)
可能性 (対話を可能にする前提は存在しているのか。言語ゲーム論)
現実性 (具体的な手続き。具体化の諸条件は)

4. キリスト教の再構築

15. 新しいキリスト教の創出とアジア (文献2, 5, 7, 8)
16. 状況適応性と自己同一性 (モルトマン)
この両極が存在する場としての公共性・多元性 (文化の神学)
場の質としての寛容

5. 展望

17. アジアの具体的なコンテキストで考えること.
18. 具体的な問題状況において。何のための対話なのか。
共通基盤と基盤とは何か
課題の共有 公共性
19. 宗教基礎論の再考
宗教とは何か (宗教概念)
なぜ宗教なのか (宗教批判)
いかなる宗教なのか (宗教的多元性)